

児童生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の在り方

— 学校の特色を生かした「キャリアノート」の効果的な活用を通して —

【研究者】 企画部 指導主事 永井 博美

【研究指導者】 福山大学人間文化学部人間文化学科 教授 小原 友行

【研究協力校】

三原市立糸崎小学校 尾道市立瀬戸田中学校

【研究協力員】

広島県教育委員会義務教育指導課 指導主事 小池 紘太郎

研究の要約

本研究は、平成20年度に広島県教育委員会が作成し、平成21年度から全公立学校で活用している「わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック～」(以下、「キャリアノート」とする。)を基盤としつつ、学校の特色を生かした効果的な活用を通して、児童生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の在り方を明らかにするとともに「キャリアノート」の改善ポイントを整理したものを改善試案として提案することを目的とする。研究協力校の取組から、学校の特色を生かし、キャリア教育の視点を踏まえた授業を展開することで、児童生徒が主体的に学ぶといった授業改善が図られ、児童生徒のキャリア発達を促すことにつながることを確認できた。とりわけ、研究協力校のアンケート結果からキャリア教育を主に担当する教師が校務分掌上で機能し、取組の共通理解を図る場となるキャリア教育の研修を実施することで、児童生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的な取組となることが分かった。これらの点に加えて、広島県の現状を踏まえた「キャリアノート」の改善ポイントを内容と活用で整理し、内容では【質問項目】【自己決定の場】【家庭との連携】【効果的なイラスト等】を取り入れ、活用においては【設問の意図】【組織的】【系統的】を明確にする必要があることが分かった。本研究では、内容における改善のポイントを反映させた「キャリアノート」の改善試案として提案する。

キーワード：組織的・系統的 学校の特色 「キャリアノート」

目次

| | |
|--------------------------|-----|
| はじめに | 113 |
| I 研究の概要 | 114 |
| II キャリア教育の基本的な在り方 | 114 |
| III 児童生徒の発達の段階に応じたキャリア教育 | 115 |
| IV 組織的・系統的なキャリア教育の在り方 | 117 |
| V キャリア教育の視点を踏まえた授業の実際 | 120 |
| VI 分析と考察 | 123 |
| VII 「キャリアノート」の効果的な活用に向けて | 128 |
| おわりに | 130 |
| 資料 | 131 |

はじめに

キャリア教育は、児童生徒がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけである。そして、キャリアの形成に

とって重要なのは、自らの力で生き方を選択していくことができるよう必要な能力や態度を身に付けることにある。

キャリア教育の必要性や意義の理解は、学校教育の中で高まってきており、実際の成果も徐々に上がっている。しかしながら、キャリア教育を「新しい教育活動を指すものではない」としてきたことにより、従来の教育活動のままでよいと誤解されたり、「体験活動が重要」という側面のみを捉えて、職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりする傾向が指摘されるなど、一人一人の教員の受け止め方や実践の内容・水準には、ばらつきのあることも課題としてうかがえる⁽¹⁾。

広島県では、キャリア教育を「幼児児童生徒一人一人がその発達課題の達成を通して、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身に付けることをねらいとして行われ

る教育活動の総体」ととらえ、学校・家庭・地域社会の連携のもと、幼児児童生徒の「知・徳・体」の調和のとれた発達を促す取組、自己実現を支援する取組などを幅広く展開している¹⁾。学校・教員が果たすべき役割として、保育所・幼稚園、小学校、中学校、高等学校等が組織的・系統的に取組を推進し、情報を共有するなどして相互に十分な連携を図ることである²⁾。

その取組の一つとして、平成20年度に「わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック～」を作成し、平成21年度から全公立学校で活用している。平成28年度全公立学校における活用状況は100%（平成29年2月県教育委員会とりまとめ）であるが、平成28年度における中学校から高等学校へ持ち上がった学校割合と中学校（中学生）から受け取った割合の差は34.2ポイントと大きな開きがあることから学校間の系統的な取組に課題があると考えられる。

I 研究の概要

1 研究の目的

そこで、本研究は、平成20年度広島県教育委員会が作成し、平成21年度から全公立学校で活用している「わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック～」を基盤としつつ、学校の特色を生かした効果的な活用を通して、児童生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の在り方を明らかにするとともに「キャリアノート」の改善ポイントを整理したものを改善試案として提案することを目的とする。

2 研究の方法

- 広島県教育委員会による「キャリアノート」活用状況調査並びに研究協力校の活用にかかる意見を集約し、課題を整理する。
- 研究協力校において、日常的なキャリア教育の推進につながるようキャリア教育の視点を踏まえた授業づくりについて、理論研修と研究授業を実施し、成果と課題を整理する。
- 平成21年度から全公立学校で活用している「わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック～」を基盤としつつ、「キャリアノート」の内容の課題から「キャリアノート」の改善ポイントを整理し、試案を作成する。

II キャリア教育の基本的な在り方

1 キャリア教育について

現在、学校教育における実践を支えるキャリア教育概念は、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年、以下、答申とする。）において示されたものである。

藤田晃之（2014）は、本答申の言う「キャリア教育」の核心として、次の部分を挙げている。

人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割の関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。このキャリアは、ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく、子ども・若者の発達の段階や発達課題の達成と深くかかわりながら段階を追って発達していくものである。また、その発達を促すには、外部からの組織的・体系的な働きかけが不可欠であり、学校教育では、社会人・職業人として自立していくために必要な基盤となる能力や態度を育成することを通じて、一人一人の発達を促していくことが必要である²⁾。

これらのことを受け、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」をキャリア教育と定義付けている。

2 キャリア教育の意義

キャリア教育を学校において実践する上で、その意義を認識することが必要であると考えられる。

答申では、次の3点を挙げている³⁾。

- キャリア教育は一人一人のキャリア発達や個人としての自立を促す観点から、学校教育を構成していくための理念と方向性を示すものである。
 - キャリア教育は、将来、社会人・職業人として自立していくために発達させるべき能力や態度があるという前提に立って、各学校段階で取り組むべき発達課題を明らかにし、日々の教育活動を通して達成させることを目指すものである。
 - キャリア教育を実践し、学校生活と社会生活や職業生活を結び、関連付け、将来の夢と学業を結び付けることにより、生徒・学生等の学習意欲を喚起することの大切さが確認できる。
- これらのことから、学校教育そのものが目指すものと、キャリア教育とが軌を一にしていることを前提として意義を示していることが分かる。

だからこそ、キャリア教育は全教育活動を通して行われるべきものとして示されていると考える。

3 キャリア教育を通して育成する「基礎的・汎用的能力」

前述のキャリア教育の定義にある「社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度」のうち、その育成をキャリア教育が中核的に担うべきものとして「基礎的・汎用的能力」が示されている。

「基礎的・汎用的能力」の説明とその要素を表1に示す。

表1 「基礎的・汎用的能力」の説明とその要素

| 基礎的・汎用的能力 | |
|---------------|---|
| 人間関係形成・社会形成能力 | |
| 能力の説明 | <p>多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。</p> |
| 要素 | <ul style="list-style-type: none"> ○他者の個性を理解する力 ○他者に働きかける力 ○コミュニケーションスキル ○チームワーク ○リーダーシップ 等 |
| 自己理解・自己管理能力 | |
| 能力の説明 | <p>自分が「できること」「意識を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。</p> |
| 要素 | <ul style="list-style-type: none"> ○自己の役割の理解 ○前向きに考える力 ○自己の動機付け ○忍耐力 ○ストレスマネジメント ○主体的行動 等 |
| 課題対応能力 | |
| 能力の説明 | <p>仕事をやる上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。</p> |
| 要素 | <ul style="list-style-type: none"> ○情報の理解・選択・処理等 ○本質の理解 ○原因の追究 ○課題発見 ○計画立案 ○実行力 ○評価・改善 等 |
| キャリアプランニング能力 | |
| 能力の説明 | <p>「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。</p> |
| 要素 | <ul style="list-style-type: none"> ○学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 ○多様性の理解 ○将来設計 ○選択 ○行動と改善 等 |

これらの能力は、包括的な能力概念であり、四つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力を全ての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではないとしている⁽⁴⁾。

つまり、各学校において目の前の児童生徒が将来、社会的に自立して、職業人としての役割を含む様々な役割を担い、それを果たしていくこと等を積み重ねていくために、児童生徒に必要な力とは何かを構想し、具体化する上で「基礎的・汎用的能力」を参考として活用されるべきものであると考える。

Ⅲ 児童生徒の発達の段階に応じたキャリア教育

1 児童生徒の発達の段階

キャリア教育の実践では、「発達の段階に応じる」ことが特に重視されている。

文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2014）は、「『発達の段階に応じる』ことは初等中等教育全体の原理であり基礎的枠組みであり、基盤となる児童生徒観ともなっている。」⁽³⁾と述べている。

また、キャリア教育は、他の教育活動同様に、基本的に人間の発達過程に即して展開させるものである。言い換えれば、キャリア教育は「人間は発達する」という人間観を前提として生涯にわたって展開されるものである⁽⁴⁾とも述べている。

このことから、発達の段階が意味する内容を次のように整理する⁽⁵⁾。

- ① 発達とは、年齢と学習の相互作用によって起こる現象
- ② 発達の速度や様相は、個々で異なり得るがすべての人に起こる現象
- ③ 発達は生涯続く過程
 - なお「過程」とは時間的経過だけを意味するのではなく、目標に向かって「前進する」という意味を含んでいる。生涯発達心理学において仮定する生涯目標とは、一人一人の自己実現であり、自己実現は一生涯かけて人が目指す課題である。
- ④ 発達は成長（獲得）と喪失（衰退）とが結びついて起こる過程
- ⑤ 発達には漸次性があると同時に、連続的（蓄積的）な側面と不連続（革新的）な側面の両方が機能して起こる過程
- ⑥ 発達は個人内では可変性がある
- ⑦ 発達は社会的環境との相互作用の中で起こる

これらのことを踏まえて、児童生徒の発達の段階をキャリア発達から整理する必要がある。

2 キャリア発達を促すキャリア教育

中学校キャリア教育の手引き（平成23年、以下、中学校手引きとする。）では、「子どもの心と体は、発達の段階を一步一步上って行きながら成長をしていく。そうした発達過程にある子どもたち一人一人が、それぞれの段階に応じて、適切に自己と働くこととの関係付けを行い、自立的に自己の人生を方向付けていく過程、言い換えると『自己の知的、身体的、情緒的、社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程』が『キャリア発達』

である。」⁵⁾と述べている。

つまり、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程がキャリア発達であり、キャリア教育はキャリア発達を促す教育であることから、児童生徒のキャリア発達を支援するものでなければならないと考える。

このキャリア発達について理解しておくべき視点について、小学校キャリア教育の手引き〔改訂版〕（平成23年、以下、小学校手引きとする。）及び中学校手引きにおいて、次のように述べている。

(1) 小学校

- 小学校1年生では、入学以前の段階との連携を踏まえて小1プロブレムへの対応が重視され、小学校6年生では小学校卒業後の段階である中学校との連携を踏まえて、中1ギャップへの対応を考える必要がある。
- キャリア発達をとらえるためには、「社会における自己の立場」や発達の段階において期待される役割を認識する必要がある。
- 担当する学年団のキャリア発達のみを視野に収めるのではなく、自分の属する学年団の前後の関係を理解することや中学校の時期におけるキャリア発達との関連をとらえることなど、時系列的な関連性を理解し、系統的な指導を行うことができるようにすることが大切である。

(2) 中学校

- 校区内の小学校の取組を把握し、その実践を踏まえて、系統的な指導を行えるよう配慮する必要がある。
 - 社会における自らの役割や将来の生き方・働き方等についてしっかり考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度の育成等について、体験を通じて理解を深めさせることが求められる。
 - 進路の選択・決定へと導くことが重要であることから、生徒の発達の段階を踏まえて学習を展開する必要がある。
 - 職場体験活動の直前、直後の指導だけではなく、中学校の入学時から卒業時までの長い期間の中で、生徒のキャリア発達に応じた指導を展開することが大切である。
 - キャリアに関する発達は個人差が大きいことから指導計画に基づいた活動を展開しながら、生徒個々人の発達に対応するための指導を充実させる必要がある。
- また、文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・

進路指導研究センター（2014）は、「キャリア教育の実践において、キャリア発達段階を基本的な考え方とする理由は、キャリア教育の目標である『社会人・職業人として求められる基礎的・汎用的能力の育成』は『年齢と学習』によって連続的に徐々に発達させられるものであるという人間の発達のメカニズムに注目したことにある。」⁶⁾と述べている。

これらのことから、児童生徒のキャリア発達は段階をおって育成されるという理解のもと教育活動を展開していくことが、児童生徒の発達を踏まえたキャリア教育につながるものと考えられる。そこで、児童生徒のキャリア発達段階とキャリア発達課題を整理することとする。

3 キャリア発達段階とキャリア発達課題

文部科学省「小学校・中学校・高等学校におけるキャリア教育推進の手引」（平成18年、以下、推進の手引とする。）を基に作成された小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達段階とキャリア発達課題を表したものが図1である。

| | | | | |
|-----|--|--|---|-------------|
| 就学前 | 小学生 | 中学生 | 高校生 | 大学・専門学校・社会人 |
| | 進路の探索・選択にかかわる基盤形成の時期 | 現実的探索と暫定的選択の時期 | 現実的探索・試行と社会的移行準備の時期 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ・身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ・夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得 ・勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 | <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的自己理解と自己有用感の獲得 ・興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成 ・進路計画の立案と暫定的選択 ・生き方や進路に関する現実的探索 | <ul style="list-style-type: none"> ・自己理解の深化と自己受容 ・選択基準としての勤労観・職業観の確立 ・将来設計の立案と社会的移行の準備 ・進路の現実吟味と試行的参加 | |

図1 小学校・中学校・高等学校におけるキャリア発達段階とキャリア発達課題⁽⁶⁾

小学校は、低学年、中学年、高学年と成長が著しく、社会的自立・職業的自立に向けて、その基盤を形成する重要な時期であることから、児童一人一人の発達に応じて、人、社会、自然、文化とかわる体験活動を、身近なところから徐々に広げていくことが求められている。

また、小学校段階では、日常的な様々な「役割」遂行の経験を積み重ねながら、内面的な価値形成に深くかわる道徳の時間との関連を図るなど、計画的・系統的に「自己の生き方」について考えることができるようにすることが望まれる⁽⁷⁾。

さらに、図1に示すように、小学校はキャリア発達段階でいうと「進路の探索・選択にかかわる基盤形

成の時期」にあたるが、前述のように低学年、中学年、高学年と成長が著しく、社会的自立・職業的自立に向けて、その基盤を形成する重要な時期であることから、小学校におけるキャリア発達課題が詳細に示されており、それを表2に示す。

表2 小学校におけるキャリア発達課題^⑧

| 低学年 | 中学年 | 高学年 |
|--|--|--|
| ①小学校生活に 適応する。 ②身の回りの事 象への関心を 高める。 ③自分の好きな ことを見つけ て、のびのび と活動する。 | ①友だちと協力 して活動する 中でかかわり を深める。 ②自分のもち味 を發揮し、役 割を自覚す る。 | ①自分の役割や 責任を果た し、役立つ喜 びを体得す る。 ②集団の中で自 己を生かす。 |

続いて、中学校は自我の目覚めや独立の欲求が高まるとともに、人間関係も広がり、社会の一員としての自分の役割や責任の自覚が芽生えてくる時期でもある。また、他者とかかわり、様々な葛藤や経験の中で、自らの人生や生き方への関心が高まり、自分の生き方を模索し、夢や理想をもつ時期である。一方で、高等学校入学者選抜をはじめとする現実的な進路の選択を迫られ、自分の意志と責任で決定しなければならない時期でもある。

表3は、推進の手引を基に作成された中学校段階におけるキャリア発達課題の例である。

表3 中学校段階におけるキャリア発達課題の例^⑦

| 第1学年 | 第2学年 | 第3学年 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 自分の良さや個性が分かる。 自己と他者の違いに気付く、尊重しようとする。 集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとする。 将来に対する漠然とした夢やあこがれを抱く。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の言動が他者に及ぼす影響について理解する。 社会の一員としての自覚が芽生えるとともに、社会や大人を客観的にとらえる。 将来の夢を達成する上での現実問題に直面し、模索する。 | <ul style="list-style-type: none"> 自己と他者の個性を尊重し人間関係を円滑に進める。 社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。 将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服するための努力に向かう。 |

中学校段階では、社会における自らの役割や生き方・働き方等について、しっかりと考えさせるとと

もに、目標を立てて計画的に取り組む態度の育成等について、体験を通じて理解を深めさせ、進路の選択・決定へと導くことが重要である^⑨。

これらのことから、キャリア発達段階を踏まえ、系統性のある指導を行うためには、前頁図1を参考に長期的な視点から児童生徒の発達を理解し、学校間連携につないでいくことが大切である。それとともに、同一校種においても学年段階のつながりを十分意識しながら取り組むことがキャリア発達を促すためにも必要であると考ええる。

そこで、組織的・系統的なキャリア教育について考えてみたい。

IV 組織的・系統的なキャリア教育の在り方

1 組織的・系統的とは

文部科学省（平成23年）「生徒指導に関する教員研修の在り方について（報告書）」において、組織的とは「教職員一人で実践するものではなく、学校全体、さらには関係機関や地域・家庭と連携協働」することであり、系統的とは、前述のようにキャリア発達段階を踏まえ、学校段階だけでなく、学年段階のつながりを意識した取組である。

これらのことから、組織的・系統的とは、学校全体で実践し、児童生徒の発達の段階を踏まえ、学校段階だけでなく、学年段階のつながりを意識した取組であり、組織的・系統的なキャリア教育とはキャリア教育を主に担当する教師を中心としつつ、全教職員の共通理解を図り、学校全体で学校段階及び学年段階のつながりを意識してキャリア教育を進めていくものと捉える。

2 組織的・系統的なキャリア教育を推進していくために

文部科学省「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議（報告書）」（平成16年、以下、総合的調査報告書とする。）において、学校や教育関係者等における「キャリア教育」推進の指針となる提言がされた。その中で、「キャリア教育においては、現代に生きる子どもたちのキャリア発達にかかる課題を明らかにし、一人一人がそれぞれの発達段階における発達課題を達成できる能力・態度を身に付けることができるよう、継続的かつ組織的・系統的に教育活動を展開することが求められる。」^⑧と述べられている。

このことは、学校の教育活動全体を通じて、児童生徒の発達段階に応じた小学校段階からの組織的・系統的な推進が必要であるというキャリア教育の基本的な考え方を示しているといえることができる⁽¹⁰⁾。

また、総合的調査報告書では、キャリア教育を推進するために必要な基本的条件及びその条件整備を挙げており⁽¹¹⁾、稿者が表4のようにまとめた。

表4 キャリア教育を推進するための条件整備

| | |
|---|---|
| 1 | 教員の資質向上と専門的能力を有する教員の養成 |
| | (1) 教員一人一人の資質向上 (2) 学校のカリキュラム開発能力の向上 (3) キャリア・カウンセリングを担当する教員の養成 |
| 2 | 保護者との連携の推進 |
| | (1) 学校から保護者への積極的な働きかけ (2) 家庭の役割の自覚と学校教育への積極的な参画 |
| 3 | 学校外の教育資源活用にかかるシステムづくり |
| | (1) 受入事業所等の確保と地域におけるシステムづくり (2) キャリア・アドバイザーの確保と活用 |
| 4 | 関係機関等との連携と社会全体の理解の促進 |
| | (1) ハローワーク等との緊密な連携 (2) 大学・専門学校等との連携 (3) 関係団体・企業等の理解と協力の推進 |

表4に示されているように、キャリア教育を推進するためには、教員一人一人の資質向上が必要であり、そのためにはキャリア教育の研修を実施することが不可欠である。そして、キャリア教育の視点で学校から保護者への積極的な働きかけをすることは重要なことであると考えられる。このような条件整備を整えていくことが大切であるのは言うまでもないが総合的調査報告書で示されているように、大人自身が自己の在り方生き方を考えたり見直したりする姿勢をもつとともに、キャリア発達を支援する機運を醸成し、社会全体で子供たちに働きかけていくことが重要であると考えられる。こういったなかで、広島県では、どのような取組がなされてきたのだろうか。

3 広島県での取組

広島県では、平成16年度に「キャリア教育推進地域指定事業」を、平成17年度に「キャリア教育実践プロジェクト」の指定を文部科学省から受けるとともに、平成17年度から県独自の「キャリア教育推

進事業」「キャリア教育推進フォーラム」、中・高等学校、特別支援学校の全ての進路指導主事を対象とした「キャリア教育コーディネートセミナー」を実施してきた。そして、平成17年度から平成19年度の3年間、キャリア教育実践モデル開発地域として県内5地域を指定し、開発地域における実践研究成果を基に、各校においてキャリア教育を進める上での疑問点や課題に対応できる手引書としてまとめたものが、広島県「キャリア教育実践の手引き」（平成20年、以下、実践の手引きとする。）である。

実践の手引きでは、学校におけるキャリア教育のポイントとして、①キャリア教育の推進体制の改善・充実、②キャリア教育全体をマネジメントの2点を挙げている。

また、この①キャリア教育の推進体制の改善・充実の手順及び留意点として、「各学校においては、校内の関係する分掌や各学年の代表者等を構成員とした委員会等、全校的な組織を設けるなど、組織的、系統的にキャリア教育を推進する体制の改善・充実が必要です。このことにより、学校が一体となってキャリア教育の推進を目指すことにつながります。」⁹⁾と述べている。

さらに、実践の手引きには、資料として夢のスケッチブック例（図2）を計画編と実践編の2部構成で示している。

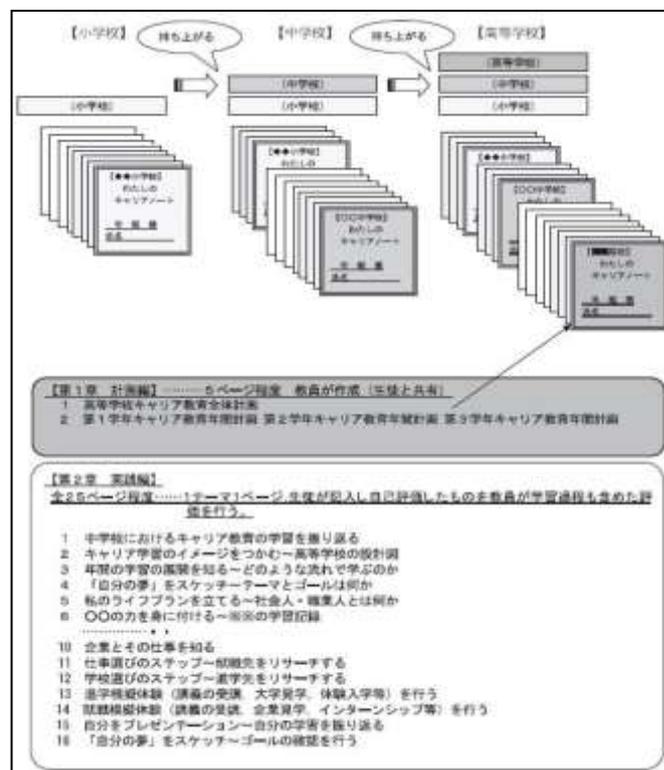


図2 夢のスケッチブック例⁽¹⁰⁾

この「夢のスケッチブック」は、キャリア教育支援会議（平成20年）が、広島県におけるキャリア教育の充実に向けて、「つながり」をキーワードに、「輝く大人をめざして 夢のスケッチブックづくり」として提言したものである。キャリア教育に係る子供一人一人の学び、経験を記録に残し綴じ込み、記録を重ねるとともに小から中、高へとバトンタッチしていくこと等の具体が盛り込まれている⁽¹²⁾。つまり、実践の手引きに示された「夢のスケッチブック」は「キャリアノート」のことである。

具体的には、計画編として、教員が作成したキャリア教育の全体計画及び年間指導計画を児童生徒と共有してつづり、実践編として、児童生徒が記入し自己評価したものを教員が学習過程も含めた評価を行い、1テーマ1ページでつづるように紹介している。

4 広島県の現状

「はじめに」で述べたように、平成21年度から全公立学校で活用している「キャリアノート」の平成28年度全公立学校における活用状況は100%（平成29年2月広島県教育委員会とりまとめ）であるが、「キャリアノート」の持ち上がりについて、過去3年分をまとめたものが表5である。

表5 「キャリアノート」の持ち上がりについて (%)

| | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 |
|-----------------------------------|--------|--------|--------|
| 小学校から、中学校へキャリアノートを持ち上がった学校割合※ | 88.6 | 90.6 | 91.1 |
| 中学校から、高等学校へキャリアノートを持ち上がった学校割合※ | 94.1 | 96.2 | 97.9 |
| 高等学校が、中学校（中学生）からキャリアノートを受け取った割合※※ | 58.0 | 63.8 | 63.7 |

※ 広島県教育委員会とりまとめ（翌年度2月）

※※広島県教育委員会調査（当該年度6月）

表5から、小学校から中学校、中学校から高等学校へ「キャリアノート」を持ち上がった学校割合は年々増加しており、平成27年度から9割台となっている一方で、高等学校が、中学校（中学生）からキャリアノートを受け取った割合は6割台に留まり、平成28年度における中学校から高等学校へ持ち上がった学校割合と中学校（中学生）から受け取った割合の差は34.2ポイントと大きな開きがあることに課題がある。また、広島県教育委員会による市町教育委員会への活用状況調査における「キャリアノート」の改善点等への記述内容の抜粋を表6に示す。

表6 活用状況調査における「キャリアノート」の改善等への記述内容（抜粋）

| | | |
|------|---|---|
| よさ | <p>【設問の意図】 発達段階を考慮してあり使いやすく、教員用には設問の意図も書かれてあり活用しやすい。児童が記入する際、その項目についての留意点や支援、具体例（教員用の吹き出しに記入されていること）を示すことで、より自分を振り返って児童が記入できるようになった。学習内容や学年に応じて質問項目を変えて活用している学校がある。</p> <p>【振り返り】 キャリア教育に関連した教科等の学習で用いたワークシート等を一緒にファイリングして、いつでも自分の学びの足跡を振り返ることができるようにしている。</p> <p>【組織的】 何を記録として残すか、学校の実態や取組にあわせ、内容を検討しながら校内で統一して活用している。</p> <p>【系統的】 小中連携の視点から、同じ中学校区のキャリア担当者で各学年の学習の足跡が分かるシートについて話し合う場を設けた。キャリアノートの活用と小学校から中学校への持ち上がりにより、児童の状況や実態について情報共有が進められている。</p> | |
| 改善点等 | 内容 | <p>【質問項目】 ①質問項目が4領域8能力になっているので、基礎的・汎用的能力の項目に直したほうがよい。</p> <p>【質問項目】 ②各学校で付きたい資質・能力と関連付けた内容に改善していく必要がある。</p> <p>【自己決定の場】 年度末だけでなく、学期途中や各学期に記入したらどうか。</p> <p>【家庭との連携】 キャリア教育について、保護者への啓発を図られるような内容にしていく。キャリアノートの活用については家庭への周知が不十分である。保護者の負担になりすぎないように協力をお願いする必要がある。</p> <p>【効果的なイラスト等】 表紙に子供たちが描いた絵等を使ってみるとより夢が膨らむのではないか。イラストや挿絵があれば楽しい紙面になる。</p> |
| | 活用 | <p>【設問の意図】 学校や児童の実態に応じて内容を見直しているかについては課題がある。昨年度の自分の考えとの違いを気付きや感想として書き込む欄があるとよい。</p> <p>【組織的】 年間計画に活用目的や活用時期について位置付ける必要がある。全校で活用し、次の学年や学校へ持ち上がっているが、活用については学校間で差がある。もっと有効活用できるような学年間・学校間の連携が必要だと思う。</p> <p>【系統的】 「キャリアノート」の作成の意図や意義について小中連携の取組の中で、児童生徒が理解を深める指導を充実させる必要がある。中学校区で用紙のサイズなど統一したほうが整理しやすく、長いスパンで活用しやすくなるのではないか。</p> |

※【 】は稿者によるものである。

前頁表6の「よさ」に示すように、学校内で組織的に取り組まれたり、「キャリアノート」を活用することでの手ごたえや「キャリアノート」の趣旨を踏まえた取組が展開されていたりすることが分かる。その一方で、「改善点等」の「活用」に「昨年度の自分の考えとの違いを気付きや感想として書き込む欄があるとよい」という記述があることから、「キャリアノート」の教員用吹き出しに記載されている活用にあたっての留意点や「キャリアノート」作成の趣旨が十分に周知されていないのではないかと考えられる。「キャリアノート」を「持ち上がる」ことが目的になっていたり、趣旨を踏まえつつ取り組んでいたりとするものの具体的な改善案を示す記述から活用状況等に課題があると考えられる。

これらの課題を整理し、改善に生かすことが、子供たちが生涯のテーマ（目標、夢、希望そして志）を見付けるようになることを支援するために提言された「夢のスケッチブック」である「キャリアノート」作成の意図を受け継いでいくことにつながり、「キャリアノート」を通して、児童生徒理解を深めたり、小中連携を図ったり、学校の特色を生かした活用となるのではないかと考える。

さらに、日々の授業とキャリア教育との関連を意識することで、児童生徒のキャリア発達を支援する視点に立った指導の工夫や改善が図れるのではないかと考える。

V キャリア教育の視点を踏まえた授業の実際

1 キャリア教育の視点を踏まえた授業とは

キャリア教育の視点とは、「キャリア教育を通して我が校の子供たちに身につけさせたい力」及び「将来の社会生活・職業生活で求められる力」⁽¹³⁾と言換えることができる。

したがって、キャリア教育の視点を踏まえた授業とは、「キャリア教育を通して我が校の子供たちに身につけさせたい力」及び「将来の社会生活・職業生活で求められる力」を踏まえた授業であり、教科等の目標を達成することが第一義とし、その上で、この1時間の授業あるいは単元を通して、子供たちにどんな力を身に付けさせたいのかを授業者が明確にもった授業であると考えられる。このような授業づくりを学校全体で取り組みたいと本教育センターの課題解決サポート講座及びサテライト研修講座（キャリア教育〔通年型〕）に受講希望された小学

校1校、中学校1校を研究協力校として依頼した。その研究協力校の特色及び取組を次に紹介する。

2 研究協力校の特色及び取組

小学校・中学校いずれの研究協力校においてもキャリア教育を研究の柱に位置付けており、10月の公開研究会等で、全学級でキャリア教育の視点を踏まえた授業を行いたいという思いをもっていた。

そこで、年度当初にキャリア教育にかかる理論的な全体研修を行い、それを受けて後日、キャリア教育の視点を踏まえた研究授業を参観し、授業後に、学びたいよさや課題、改善点について、児童生徒の姿から協議を行っていった。

(1) 小学校（三原市立糸崎小学校）

学校教育目標を「学び つながり 挑戦する子ども～地域を支え 世界で活躍する姿をめざして～」とし、10年後・20年後、

○ 「学び続けたい」「働き続けたい」と願っている

○ 自分の夢を実現している

○ 糸崎をもっとすてきな街にするために活躍している

○ 糸崎を離れても糸崎が大好き

といった子供たちの姿を実現するための教育活動を展開している。

平成29年度から思考ツールを活用し、キャリア教育の視点で授業改善することを通して、自己理解・自己管理能力を高め、主体的に学び続ける児童の育成を目指している。その実現に向けて、校務分掌の教育研究部を平成29年度から教育研究・キャリア教育部として位置付け、全教職員が共通理解を図れるよう研修を実施し、その後には研究主任が研修だよりを発行するなどの取組を進めている。また、道徳参観日には働くことについて考える際、全学年で地元の方をゲストティーチャーに招き、地域ふれあい交流会では昔の遊びを教えていただくなどの連携が図られている。さらに、地元企業の協力を得て、第5・6学年の児童がスイーツバーガーを開発し、校内での最優秀作品をスイーツバーガーグランプリに出品し、審査員特別賞を受賞している。児童は、そのバーガーを販売体験し、地元の方の参加も得ている。小学校では理論的な全体研修後、校内研修で2回の研究授業を行い、そこでの学びを日々の授業改善に生かせるよう研究だよりとして発行し、校内での共有を図っている。

次の表7は小学校での取組を表している。

表7 キャリア教育の視点を踏まえた授業（小学校）

| 実施日 | 学年 | 教科等 | 単元名・題材名・主題名 | 本時の目標 | キャリア教育の視点 |
|--------|------|----------------------|---|--|---|
| 十月十九日 | 第一学年 | 国語 | くらべてよもうじどう車くらべ | 既習の説明の構成の類似点に気付き「仕事」「つくり」の順序で説明を書くことができる。 | 既習事項を活かし課題を解決している。（課題対応能力） |
| | 第二学年 | 生活 | うごくうごく わたしのおもちや～おもちゃショーをひらこう！～ | 友だちと比べたり、工夫したところを教え合ったりして、よりよく動く工夫を考える。 | よりよく動くように考えた工夫を、友だちに伝えている。（人間関係形成能力） |
| | 第三学年 | 理科 | 風やゴムで動かそう | 風でものを動かす時、強い風の方がものを動かすはたらきが大きいことが分かる。 | 友だちと協力して学習や活動に取り組む。（人間関係形成・社会形成能力） |
| | | 音楽 | いろいろな音のひびきをかんとろう | 音の組み合わせや重ね方を工夫して「まほうをかけるときの音楽」を作ることができる。 | 友だちと協力して、イメージに合う音楽を表現することができる。（人間関係形成・社会形成能力） |
| 九月二十八日 | 第四学年 | 理科 | 動物のからだのつくりと運動 | 動物は、骨や筋肉のはたらきにより、自由に体を動かしていることが分かる。 | 友だちと協力して学習や活動に取り組む。（人間関係形成・社会形成能力） |
| 十月十九日 | | 体育 | 高跳び | より高く跳ぶために助走の仕方や体の動かし方のポイントを見付けることができる。 | 自分の役割に責任をもちながら、友だちと協力して活動をしている。（コミュニケーション能力） |
| 六月二十二日 | 第五学年 | 社会 | これからの食料生産～「持続可能な」農業の在り方～ | 日本の食料生産のために、地産地消が有効であるか考える事ができる。 | より良い社会にしていけるために、「持続可能な食料生産」を視点にもち、考える事ができる。（課題対応能力） |
| 十月十九日 | | 社会 | 自動車工業のさかんな地域 | マツダの自動車づくりの特色を、多面的に考えることができる。 | 集団の中での自己の役割を意識して活動し、達成感を得ることができる。（自己理解・自己管理能力） |
| | 社会 | 自動車工業のさかんな地域 | マツダの自動車開発の計画から、自動車開発は長期的な展望をもとに計画されていることが理解できる。 | 集団の中での自己の役割を意識して活動し、達成感を得ることができる。（自己理解・自己管理能力） | |
| | 第六学年 | 道徳 | 夢 | 夢に向かって努力を続けた「ぼく」の姿を通して、努力を続けることの尊さへの考えを深め、前向きに努力をしていこうとする心情を養う。（不とう不屈・希望・勇気） | 目標に向かって努力することの大切さに気付いている。（前向きに考える力） |
| | あおぞら | 算数 | おおきさくらべ（1） | 長さ比べの考え方を基に、かさを比べることができる。 | 長さ比べの考え方を基に、かさを比べるという新たな問題解決に取り組むことができる。（課題対応能力） |
| | たんぼぼ | 算数 | 1年：つかみ取りをした数を計算しよう | 1年：十のまとまりをもとにして十進位取り法を理解することができる。 | 学習上の課題を見付け、自分の力で解決しようとする。（課題発見・解決力） |
| 算数 | | 5年：直角三角形の面積の求め方を考えよう | 5年：直角三角形の面積の求め方を考えることができる。 | 学習上の課題を見付け、自分の力で解決しようとする。（課題発見・解決力） | |

(2) 中学校（尾道市立瀬戸田中学校）

平成16年度から平成18年度文部科学省委嘱キャ

リア教育推進地域指定事業の尾三地域の1校である。当時は、小学校3校、中学校2校、高等学校

1校の計6校で構成されていたが、現在は小学校・中学校とも1校となっている。

学校教育目標を「知徳体のバランスがとれ、これからの社会をたくましく生きる力を持った生徒の育成」とし、付きたい力を明確にしたカリキュラム開発を通して、生徒の自己肯定感を高める指導の工夫を図っている。付きたい力を明確にする際、自校を示す「本校」のみで考えるのではなく、瀬戸田地区に在る小学校・中学校・高等学校を含めて「本地域」で考えているところに特色があり、瀬戸田地区小中高合同研修会において、「島内の児童生徒の実態と付きたい力を明確にする」「小中高の教職員が交流することで連携を深め、組織的・系統的な教育活動の体制づくり」を進めている。

中学校では、付きたい力を明確にしたカリキュ

ラム（教科・領域等）を作成したり、全教職員がキャリア教育の視点を踏まえた学習指導案を作成し、授業に取り組んだりしている。また、学校全体としての目標については、学校評価と連動させるとともに、「基礎的・汎用的能力」との関連を図り、全校集会で話をした後、各クラスに掲示するなど生徒と目標を共有している。さらに、運動会等の行事において、目標と「基礎的・汎用的能力」との関連を図り、その要素を実行計画書に明示するなどし、学校の教育活動全体での取組につないでいる。

中学校においては、5月に実施した理論研修の段階から校区の小学校だけでなく、高等学校にも呼びかけをし、小学校・中学校・高等学校で系統的にキャリア教育が行えるよう連携し、取り組んでいる。表8は中学校での取組を表している。

表8 キャリア教育の視点を踏まえた授業（中学校）

| 実施日 | 学年 | 組 | 教科等 | 単元名・題材名 | 本時の目標 | キャリア教育の視点 |
|-------|----------|----|------------|---|---|--|
| 十月十八日 | 第一学年 | 一組 | 音楽 | 篠笛を吹こう（日本の音楽に親しもう） | 息を当てる部分を意識しながら良い音で演奏できる。 | 〔人間関係形成・社会形成能力〕 他者に働きかける力 |
| | | 二組 | 社会 | ヨーロッパ 国境を越えて結びつくEUの工業～地域統合の課題とこれからの考える～ | ・EUの工業の特色を知る。 ・統合による変化と課題について考え、自分の意見を発表できる。 | 〔課題対応能力〕 情報の理解・選択・処理等 |
| | | 一組 | 特別活動 | 自分について考える～自分自身を振り返り、次のステップへ進もう～ | 自分自身の成長に気付き、新たな課題設定をする。 | 〔自己理解・自己管理能力〕 主体的行動 〔人間関係形成・社会形成能力〕 他者に働きかける力 |
| 九月十一日 | 第二学年 | 二組 | 国語 | 短歌を味わう～鑑賞文で交流しよう～ | 鑑賞文を読み、短歌の大意、筆者、作者のものの見方について、知識や体験と結び付けて自分の考えをもっている。 | 〔人間関係形成・社会形成能力〕 他者に働きかける力 〔自己理解・自己管理能力〕 主体的行動 |
| 十月十八日 | 第三学年 | | 特別活動 | 自分について考える～自分自身を振り返り、次のステップへ進もう～ | 自分自身の成長に気付き、新たな課題設定をする。 | 〔自己理解・自己管理能力〕 主体的行動 〔人間関係形成・社会形成能力〕 他者に働きかける力 |
| | | 一組 | 美術 | 作品のタイトルを考え、伝えたいことを感じ取ろう | 作品を構成している造形要素から、作者の心情や表現の工夫と意図を感じ取り、自分の思いや考えをもって味わい、根拠をもって表すことができる。 | 〔人間関係形成・社会形成能力〕 他者に働きかける力 |
| | 二組 | 理科 | 力と運動（落下運動） | 「質量の異なる物体の落下運動がどうなるか」を確かめる実験方法をもとに考察することができる。 | 〔課題対応能力〕 情報の理解・選択・処理等 | |
| | 級（知的）支援学 | 数学 | 計算機 | 小型卓上計算機を使って、生活場面における簡単な四則の計算ができる。 | 〔課題対応能力〕 情報の理解・選択・処理等 | |

各教科等におけるキャリア教育の視点を踏まえた授業づくりにおいて、新学習指導要領にて、キャリア教育の要として示された特別活動の流れ等を表8の10月18日に第2学年1・2組で実施しているので、次に示す。

【特別活動】

- 1 題材名 自分について考える～自分自身を振り返り、次のステップへ進もう～
- 2 題材の目標
 - ・他者の思いや考えにふれ、自己理解に努める。
 - ・人間としての生き方について考え、自分の進路選択について考える。
- 3 本時の目標 自分自身の成長に気付き、新たな課題設定をする。
- 4 本時の展開

| | | |
|-----------|---|--|
| | 目標が立てられるよう促す。 ◆今日からできる身近な目標を設定させる。 | 己を生かしながらよりよい解決方法などについて考え目標をもつことができる。 (ワークシート) |
| 5 本時の振り返り | ◎他者の意見を参考にして、自分を振り返り、設定した課題に前向きに取り組む姿勢を促す。〔人間関係形成・社会形成能力〕 | |

| 学習活動 | 指導上の留意点 (◇) 「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て (◆) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと (◎) | 評価規準 〔観点〕 (評価方法) |
|---|---|---|
| 1 自己理解チェックシートを思い起こす。 | (めあて) 自分自身を振り返り、次のステップへ進もう。 | |
| 2 本時の課題を確認する。 | | |
| 3 アンケート結果の推移を比較し、気付きを書いていく。〔個人思考〕 ・グループで意見交流する。〔グループ活動〕 ・グループのまとめを発表する。〔全体〕 | ・キャリア教育アンケート結果の推移を比較させる。(H28～H29) ◇生徒の自由な意見を尊重し、生徒同士の対話をする中で、自分たちの成長を感じ取らせる。 ◎他者の意見を聞きながら、自分と違う考えを赤ペンで記入させる。〔自己理解・自己管理能力〕 | ○日常生活における自己の課題を見出し、自己を生かしながらよりよい解決方法などについて考え、判断することができる。(行動観察・ワークシート) |
| 4 自分の課題に気付き、目標を設定する。〔個人思考〕 | ◇個人のコメント(5月、7月)を参考にさせる。 ◇自分の将来について前向きに考え、自 | ○日常生活における自己の課題を見出し、自 |

「4 本時の展開」の「学習活動3」にあるアンケートとは、中学校手引きに掲載されているキャリア教育アンケートの一例として示されている質問項目に、「基礎・基本」定着状況調査の生徒質問紙「自己実現力・自己効力感」に係る内容を追記したものであり、研究協力校においては継続的にアンケートを実施している。本時は、このアンケート結果を活用しての授業展開である。

VI 分析と考察

研究協力校における日常的なキャリア教育の推進につながるキャリア教育の視点を踏まえた授業づくり及び「キャリアノート」の活用についての成果と課題を整理するとともに、児童生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育が推進できたかについて、分析と考察を行う。

1 学校の特色を生かし、キャリア教育の視点を踏まえた授業を展開することができたか

前々頁表7・前頁表8に示しているように、研究協力校において小学校では12、中学校では8の学習指導案を作成し、キャリア教育の視点を踏まえた授業を展開している。キャリア教育の理論研修やキャリア教育の視点を踏まえた授業参観及び研究授業後の研究協力校の教職員の気付きや感想の一部抜粋を紹介する。

研究協力校（小学校）の教職員の気付きや感想

- ・改めて、児童の「やってみよう」を引き出すことの大切さを感じた。そのためには、ICTだけでなく、日々の学習の積み重ねや確かな児童理解が必要だと感じた。今後も、本時だけでなく、単元や教育活動全体を通して、子供たちに身に付けさせたい力や、そのための手立てを系統的に考えていきたい。
- ・授業の振り返りを充実させ、学習内容の定着を図ったり、メタ認知による自己変革を促したりしたいと考えています。その中に、キャリア教育で付けたい力を入れるとよいと思いました。例えば、「今日の授業では、かかわる力がついたと思います。その理由は～からです。」のような発言が出てOKだと思いました。今、振り返り用の掲示物を作ろうと考えているので、その中に「みつめる力」などのキーワードや話型を取り入れたいと思います。
- ・子供たちが自立して生きていけるよう、手立てを考えていく。中学、高校に進学した時の姿を見通して、それがイメージできるよう支援していきたい。

研究協力校（小学校）では、第4学年及び第5学年の研究授業を実施した。児童の姿からキャリア教育の視点を踏まえた授業のよさや課題、そして改善点（自分だったらこうするといった具体案）を出し合った。そのことで、自分の学級であれば、どのような授業展開ができるのかと、自分事として考えることにつながり、日常的に職員室で、そのような会話がなされるようになった。

また、「今、振り返り用の掲示物を作ろうと考えているので、その中に『みつめる力』などのキーワードや話型を取り入れたい」といった環境整備にも取り組みたいという思いをもち、児童の学びがつながるような工夫も考えている。さらに、「本時だけでなく、単元や教育活動全体を通して、子供たちに身に付けさせたい力や、そのための手立てを系統的に考えていきたい。」という感想から1単位時間でのキャリア教育の視点を踏まえた授業づくりから、単元全体で、どのような力を身に付けさせたいかと広がっていることも分かる。

そして、「子供たちが自立して生きていけるよう、手立てを考えていく。中学、高校に進学した時の姿を見通して、それがイメージできるよう支援していきたい。」という思いから、小学校だけでなく、中学校、高等学校への見通しをもって系統的な取組が必要であることを実感していることが分かる。

研究協力校（中学校）の教職員の気付きや感想

- ・今日の授業内容を参考にし、授業でキャリア教育の視点を踏まえた授業展開を考えていきたい。また、日々の生活においても、キャリア教育の視点を持ち、生徒の自己肯定感を高めていけるようにしたい。
- ・教科のねらいを達成することに主眼を置き、その中でキャリア教育の視点をもった授業を展開していきたいと思いました。私の学級では、ペア学習やグループ学習を増やしていきました。教科のねらいに迫ることはもちろん、キャリア教育の視点も大切に、他者を受け入れ、なおかつ自分の思いもきちんと主張できるよう指導を続けていきたいと思います。生徒同士の関係や学級の雰囲気がよくなってきたことが嬉しいです。
- ・5月の研修時は、キャリア教育の視点を踏まえた授業のイメージがなかなかもてず焦りましたが、今回、実際に授業を見たことで、自分の教科でのイメージがしっかりもてました。特に生徒の姿からどのように見取るのがとても参考になりました。これからの授業に生かしたいです。

研究協力校（中学校）では、5月の理論研修後、第2学年の研究授業を実施し、地域の小学校、高等学校の教職員も交えて、生徒の姿からキャリア教育の視点を踏まえた授業のよさや課題、改善点を協議した。そのことで、「5月の研修時は、キャリア教育の視点を踏まえた授業のイメージがなかなかもてず焦りましたが、今回、実際に授業を見たことで、自分の教科でのイメージがしっかりもてました。」「教科のねらいに迫ることはもちろん、キャリア教育の視点も大切に、他者を受け入れ、なおかつ自分の思いもきちんと主張できるよう指導を続けていきたい」とあるように、教科の枠を超え、本時の目標を達成することを第一義としながら、取り入れたキャリア教育の視点を生徒のどのような姿で見取るか具体的に考えることができた。さらに、「日々の生活においても、キャリア教育の視点を持ち、生徒の自己肯定感を高めていけるようにしたい」と付けたい力を明確にし、学校の教育活動全体でキャリア教育を推進していこうとしていることが分かる。

これらの教職員の気付きや感想から研究協力校において、研修での学びを研修日よりなどで日常的な取組としてつなぎ、児童生徒の実態を踏まえた授業づくりや環境整備に取り組む姿がうかがえる。

また、前頁で示した10月18日、第2学年1・2組で実施した特別活動におけるワークシートへの生徒の記述内容の一部を表9に示す。

表9 特別活動におけるワークシートへの生徒の記述内容

| | 成長した部分 | 今後に向けて | 今日の振り返り |
|-----|--|--|--|
| 生徒A | 考えが深まり、現実を知った。先のことを考えるようになった。 | 進路を決め、将来に向けて頑張っていく。勉強をやる。できることは何にでも挑戦する。 | 今は悩んで夢が決まっていなくても、悩みとかの壁を越えれば必ずなれるから、このまま続けてコツコツとやっていたいと思います。将来必ず役立つ「勉強」をやっていくのがいいと思いました。 |
| 生徒B | リーダーシップ(部活)=自信 職場体験などで自分のことを褒められる=自信 →自分のよところを言われる。 自分と向き合う力。 | 私の場合、夢が決まっているので、そこに向けてひたむきに努力することが大切だと思う。そこで自分が伸ばすべきことは、忍耐力と常に全力ですることだと思う。そのために、普段の授業で分からない問題などがある場合、あきらめずに最後まで全力で取り組むことを実践したい。しんどいことがあっても、逃げ出さず成し遂げる力を付けたい。 | 今日の学習を通して、自分たちの成長できたところや課題を見つけてくれた。1年生から2年生につれて自信がつくようになり、しかしその一方で、夢や目標をもつ子が少なくなっていることが分かった。今日の「今後に向けて」を実現できるように頑張りたい。 |
| 生徒C | 入試が近づくにつれて不安が大きくなり、将来に自信がなくなってきた。 (なぜなら)本気になっているから。 | 不安=本気なので、勉強のことも考えていき、これからの将来をちよつと真剣に考えていく。そのために、友だちと協力することも大切だと思った。自分の将来のために、今できることをなるべくやる。たとえば会話力を付ける。 | 自分で気付いたところの他にも、皆は違うところにも気付いていて、すごく助かった。また、友達はもう成長をしていて、将来のことをちよつとつ考えていることが分かった。 |

※ ()は稿者が追記したもの。

「表3 中学校段階におけるキャリア発達課題の例」で示したように、第2学年は将来の夢を達成する上での現実問題に直面し、模索する時期である。第2学年の特別活動において、「自分について考える～自分自身を振り返り、次のステップへ進もう～」のなかで、自分自身の成長に気付き、新たな課題設定をすることはキャリア発達を踏まえた授業展開であり、生徒にとっても意義ある時間であったと考える。「成長した部分」「今後に向けて」「今日

の振り返り」の記述内容から、生徒は自分の考えを基に、グループで意見交流することで、共感する考えや自分にはなかった視点での考えにふれ、改めて自分自身を振り返り、成長した部分に気付いたり、更に取り組んでいこうとする課題に向き合ったりしている様子がうかがえる。このように生徒自身が成長を実感でき、次への目標を自ら設定したワークシートを「キャリアノート」として、綴じ込むことが大切なのではないかと考える。

以上のことから、学校の特色を生かし、キャリア教育の視点を踏まえた授業を展開することで、知識を得るだけでなく、これまでの知識を活用しながら児童生徒が主体的に学ぶといった授業改善が図られ、児童生徒のキャリア発達を促すことにつながる事が考えられる。

2 「キャリアノート」の効果的な活用が行えたか

研究協力校のキャリア教育主担当者に、自校における「キャリアノート」の活用を振り返ってもらい四段階評定尺度法で行ったアンケート結果が表10である。

アンケート結果から「図2 夢のスケッチブック例」で示したように、キャリア教育の全体計画及び年間指導計画といった計画編はつづられていなかった。実践編をつづることの意識は高いことから、児童生徒と付けたい力を共有して、取り組んでいくことが必要であると考えられる。

このアンケート実施後、両校の担当者は次のような気付きをもっている。

- キャリアノートの活用が計画的でなかったという課題が明らかになった。来年度のはじめには計画的活用ができるように、キャリア教育の年間指導計画を提示して説明していく。
- キャリアノートにつづる学習資料については、全てをつづるのではなく、生徒の変容が分かるものについて(特に生徒の記述が多いプリントを)つづるように話をしている。しかし、学年での話し合いの結果を全体で共有できているかの確認ができていない。研究部が学年に提案し、学年でつづる資料を決定していく。
- 「キャリアノート」を上級学校へ持ち上がってきたが「キャリアノート」が作られた経緯を知らないの、ねらいや意図を共有することで、効果的な活用につながるのではないかと考える。

表10 研究協力校における「キャリアノート」の活用

| 質問項目 | 小学校 | 中学校 |
|--|-----|-----|
| 自校のキャリアノートの活用は充実していると思う。 | 2 | 2 |
| 自校のキャリアノートは、児童生徒が見ようと思った時にいつでも見ることができる。 | 4 | 3 |
| 自校のキャリアノートには、該当年度のキャリア教育全体計画をつづっている。 | 1 | 1 |
| 自校のキャリアノートには、該当学年のキャリア教育年間指導計画をつづっている。 | 1 | 1 |
| 自校では、広島県教育委員会ホームページでダウンロードしたキャリアノートを活用し、児童生徒が記入している。 | 4 | 4 |
| 自校では、広島県教育委員会ホームページに掲載しているキャリアノート(教員用)を参考にし、児童生徒が記入しやすいように工夫をしている。 | 2 | 4 |
| 自校のキャリアノートには、学校で実践している学習の資料をつづっている。 | 4 | 4 |
| 自校では、キャリアノートにつづる学校で実践している学習の資料について校内で相談をしている。 | 3 | 3 |
| 自校では、キャリアノートの活用について保護者の方に説明をしている。 | 2 | 2 |
| 自校では、効果的なキャリアノートの活用に向けて校内で協議をしている。 | 3 | 3 |

アンケート結果から両校とも「広島県教育委員会ホームページでダウンロードしたキャリアノートを活用し、児童生徒が記入」していたり、「学校で実践している学習の資料」をつづっていたりしているものの、「自校のキャリアノートの活用は充実している」と感じておらず、「自校のキャリアノートには、該当年度のキャリア教育全体計画」及び「年間指導計画」をつづっていない状況があることが分かる。両校のキャリア教育主担当者の気付きに「『キャリアノート』が作られた経緯を知らないので、ねらいや意図を共有することで、効果的な活用につながるのではないかとあるように、「キャリアノート」の効果的な活用に向けて、作成の意図や意義の共通理解を図り、「キャリアノート」の改善に生かしていくことが大切である」と考える。

3 児童生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育が推進できたか

図3は研究協力校(小学校)、図4は研究協力校(中学校)における教職員を対象とした事前(5月)・事後(11月~12月)アンケート結果である。アンケートは四段階評定尺度法である。事前・事後

アンケート結果をウィルコクソンの符号順位検定したところ、有意差が見られた項目について、図中に示している(p<0.01は**、p<0.05は*)。

研究協力校(小学校)において、「キャリア教育は充実していると思う」の項目で有意差(p<0.01)が見られた。キャリア教育が充実している理由として、次のような意見が挙げられている。

- 昨年度末にカリキュラムの改善を行い、今年度の最初に授業構成図にキャリアの視点を明記したから。
- キャリア教育の視点で授業改善に取り組んでいるため、日々の中でもキャリア教育の視点を取り入れるようになったから。
- 全教科でキャリア教育の視点で考えているから。

これらの意見から学校全体で組織的にキャリア教育の視点で授業改善に取り組むことにより、キャリア教育が充実していると感じていることが分かる。

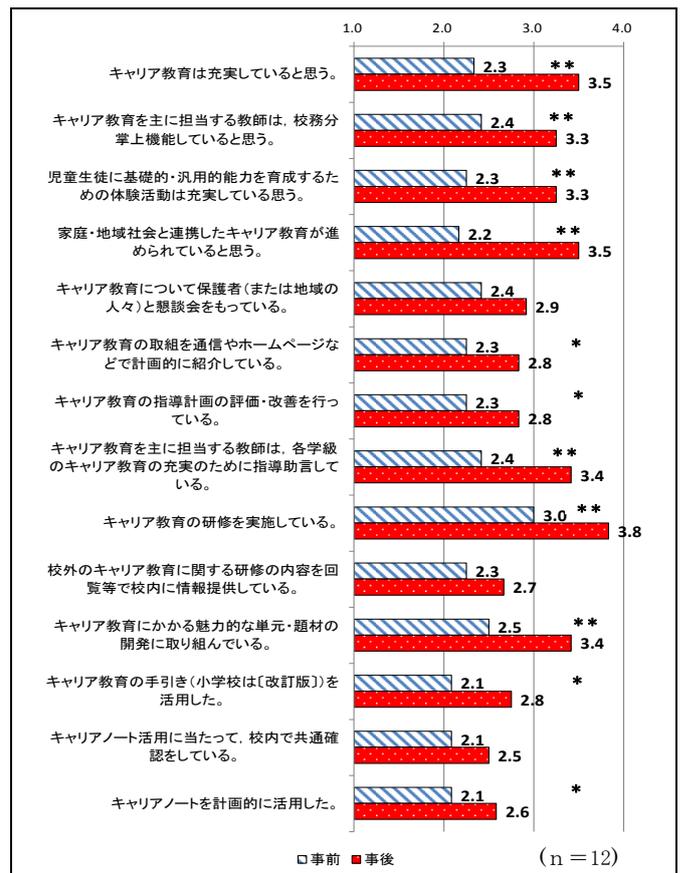


図3 研究協力校(小学校)における結果

また、「キャリア教育を主に担当する教師は、校務分掌上機能していると思う」の項目でも有意差(p<0.01)が見られ、次の理由が挙げられている。

- 担当として研修日より発行等を通して、計画的、実効的な取組を進めているから。
- 数値目標を明確化し、学校全体で取り組める仕組みをつくらうと努力しているから。

このことから研修での学びをつなぐため、研修日より発行する等、学校全体で取り組む仕組みをつくり、キャリア教育を主に担当する教師が校務分掌上機能していることが分かる。

さらに、「キャリア教育にかかる魅力的な単元・題材の開発に取り組んでいる」の項目で有意差 ($p < 0.01$) が見られた。その理由として、

- 八天堂とのコラボがあるから。今年度から地域のゲストティーチャーを招待して、学びを深めたから。
- 様々な教材の工夫、単元の工夫、ゴールイメージの明確な構成等の工夫ができているため。

といった意見が挙がっている。研修での学びを日々の授業につなぎ、「3 キャリア発達段階とキャリア発達課題」で述べたように、人、社会、自然、文化とかかわる体験活動を身近なところから徐々に広げ、児童のキャリア発達を促している。

研究協力校（中学校）において、有意差が見られた質問項目は二つであった。これは、学校の特色で述べたように、これまでの取組のよさが活かされており、事前の数値が高かったためだと考えられる。

「キャリア教育は充実していると思う」の項目で有意差 ($p < 0.05$) が見られた。キャリア教育が充実している理由として、次のような意見が挙がっている。

- 全体計画や具体的な内容を理解していなかったが、今年度の取組を通して広がったから。
- 取組の方向性が少しずつ明確になりつつあるように思うから。
- 5月に行われたサテライト研修が有効であったことと推進教員が3年間のシラバスを立て、生徒・地域の実態に応じた内容となっていると思うから。

これらの意見から、キャリア教育の研修を通して、共通理解が図られ、学校が組織的にキャリア教育の充実を図っていることが分かる。

また、「キャリア教育にかかる魅力的な単元・題材の開発に取り組んでいる」の項目で有意差 ($p < 0.05$) が見られた。その理由として、

- 総合的な学習の時間において、地域の将来について考える取組を行っているから。
- 掲示板等を活用して、つながりを意識させているから。

といった意見が挙がっている。生徒の学びがつながるように環境整備を行い、生徒のキャリア発達を促す取組を行っていることが分かる。

さらに、「キャリア教育を主に担当する教師は、校務分掌上機能していると思う」の項目では有意差が見られなかったが、他の項目と比較しても高いポイントを示している。その理由として、次の意見が挙がっている。

- 最初から機能している。
- 小学校、高校との連携、研修ごとの提言を分かりやすく行っている。
- 学習指導案にもキャリア教育の視点が入り入れられたりして、改善や取組があったから。

これらの意見から、系統的な取組となるようキャリア教育を主に担当する教師は縦と横の連携を図

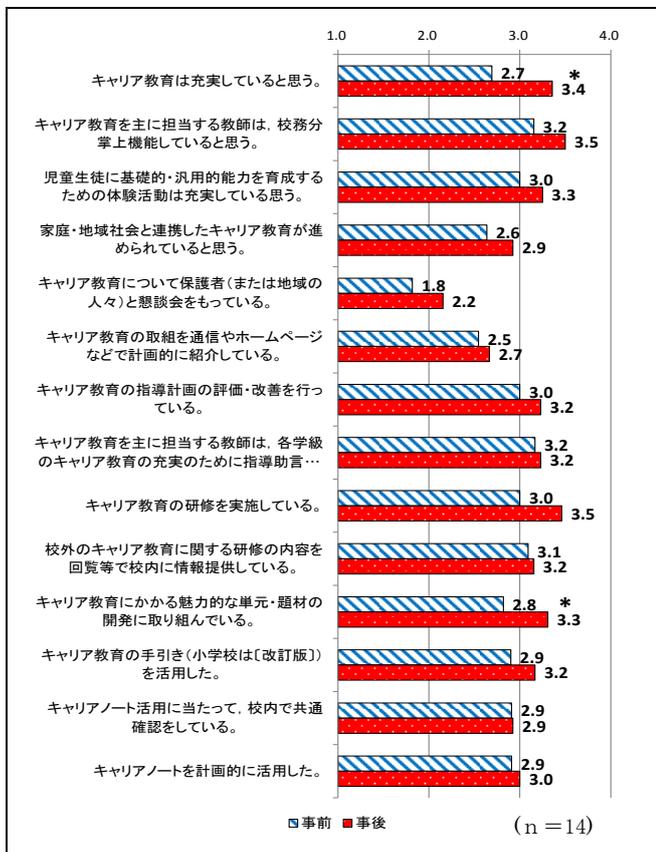


図4 研究協力校（中学校）における結果

り、このことが自校のキャリア教育の充実を実感することにもつながっていると考える。

以上のことから、研究協力校（小学校・中学校）において、キャリア教育を主に担当する教師が校務分掌上で機能し、取組の共通理解を図る場となるキャリア教育の研修を実施することで、自校のキャリア教育の充実が図られ、組織的な取組につながっていると考えられる。また、日常的なキャリア教育の視点を踏まえた授業づくりなど、児童生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的な取組がなされていると考える。

その一方で、研究協力校（小学校）では有意差（ $p < 0.01$ ）が見られたものの、両校において「『キャリアノート』」を計画的に活用した」の項目では、次のような意見が挙がっている。

| | |
|-------|--|
| (小学校) | |
| ○ | 計画的な活用の実態が見えてきたが、活用の方法には、まだ改善の余地があるため、十分に活用できているとは言えない。 |
| ○ | 毎年追加しているが形式的であるので、計画的な活用とは言えない。 |
| (中学校) | |
| ○ | 年度末に慌てて作成している実態があるから、計画的に活用できているとは言えない。 |
| ○ | 振り返りに活用している学年も出てきた。全学年、「こうしよう」というところまでは至っていないため、計画的とは言えない。 |

「活用の方法には、まだ改善の余地」があつたり、「毎年追加しているが形式的」であつたり、「年度末に慌てて作成している実態」があるため、計画的な活用とは言えない状況であることが分かる。「キャリアノート」の活用については、前述「2『キャリアノート』の効果的な活用が行えたか」や図3及び図4の結果からも改善の余地があるものと考えられる。また、前述の「表6 活用状況調査における『キャリアノート』の改善等への記述内容（抜粋）」のよさとともに改善等にも「設問の意図」が挙げられているように、その要因の一つとして、平成21年度から全公立学校で活用している「わたしのキャリアノート～夢のスケッチブック～」の趣旨が十分に継承されていないことが考えられる。

次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめのポイント（平成28年）にも示されたように、「一人一人の学びの成果を、学校段階を越えて

つなぐため、小・中・高を通じて特別活動に『一人一人のキャリア形成の実現』を位置付けるとともに、『キャリア・パスポート（仮称）』の活用を促進」¹¹⁾することが求められている。

キャリア教育支援会議が提言した「広島県におけるキャリア教育の充実に向けて」（平成20年）から10年という節目に当たる今年。「キャリアノート」の効果的な活用に向けて、「キャリアノート」の改善ポイントを整理したものを試案として提案していき、児童生徒のキャリア発達を促す支援の一助としたい。

Ⅶ 「キャリアノート」の効果的な活用に向けて

そこで、広島県の現状（表6 活用状況調査における「キャリアノート」の改善等への記述内容）や研究協力校のキャリア教育主担当者による「キャリアノート」の活用アンケート後の気付きから「キャリアノート」の内容及び活用に当たっての課題とその改善ポイントを表11に整理し、内容の改善ポイント①～⑤を踏まえ（図5）、小学校第5学年及び中学校第2学年の児童生徒用を改善試案として提案する。

表11 「キャリアノート」の内容及び活用に当たっての課題とその改善ポイント

| | | 課題 | 改善ポイント |
|----|-----------|-------------------------------|---|
| 内容 | 【質問項目】① | 質問項目が4領域8能力になっている。 | 児童生徒が、基礎的・汎用的能力の各要素に対応した振り返りを行い、自分自身を見つめることができるようにする。 |
| | 【質問項目】② | 各学校で付けたい資質・能力と関連付けた内容になっていない。 | 各校で育成したい資質・能力にかかる項目が書き込めるよう空欄【学校設定項目】を設ける。 |
| | 【自己決定の場】③ | 活用が年度末だけになっている。 | 学期途中や各学期に記入できるよう「キャリアノート」を1枚に限定しない。各学期における体験等との関連のある項目について、児童生徒自身が感じたり、考えたりしたことを基に、今後に向けて自己決定できる場を設定する。 |
| | | 教師からのコメントで「キャリアノート」が終わっている。 | 児童生徒が担任等のコメントを読んで、更にどうしたいのかを記入できる自己決定の場を設ける。 |

| | | | |
|----|--------------|---|---|
| | 【家庭との連携】④ | キャリア教育について、保護者への啓発が十分でなく、家庭への周知が不十分である。 | 従来どおり担任（小・中学校）のコメントとともに小学校については保護者からのコメント欄を設ける。その際、保護者の負担になりすぎないように配慮する。 |
| | 【効果的なイラスト等】⑤ | イラストや挿絵等が無い。 | 学校キャラクターや効果的なイラストの活用を行う。表紙に子供たちが描いた絵等を使う。 |
| 活用 | 【設問の意図】 | 学校や児童生徒の実態に応じて内容を見直しきれていない。 | 従来の教員用の吹き出し等を参考にしつつ、学校の特色を生かした項目にしていく。 |
| | | 昨年度の自分の考えとの違いを気付きや感想として書く欄を設ける。 | |
| | 【組織的】 | 年間指導計画に活用目的や時期について位置付けができていない。 | 各学校のキャリア教育担当者を中心としつつ、今年度の活用状況から、次年度の計画に反映させる。 |
| | 【系統的】 | 「キャリアノート」の作成の意図や意義について共有できていない。 中学校区で用紙のサイズなど統一できていない。 | 小中連携の際、児童生徒理解に基づいた取組となるよう「キャリアノート」の作成の意図や意義について共通理解を図るとともに、ファイリング形式についても相談する。 |

表11「キャリアノート」の内容及び活用に当たっての課題とその改善ポイントに示す①～⑤と図5「キャリアノート」の内容の改善ポイントを踏まえた試案に示す①～⑤は対応をしている。

質問項目①の質問は12項目である。「キャリアノート（試案）」に番号を掲載していないが、三つ区切りに「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」といった基礎的・汎用的能力の各要素に対応したアンケートとなっている。

活用に当たっての【設問の意図】の改善ポイントに示している「従来の教員用」とは、広島県教育委員会ホームページに掲載されている教員用の「キャリアノート」である。該当学年や前後の学年の吹き出し等に記載された内容を参考にすることによって学校や児童生徒の実態に応じた内容にすることができると考える。

また、【組織的】の改善ポイントに示している「キャリア教育担当」とは、各学校におけるキャリア教育を主に担当する教師のことであり、全教職員で協力していくことが大切である。

さらに、【系統的】の改善ポイントに示している「作成の意図や意義」については、広島県教育委員会ホームページに掲載されているキャリア教育支

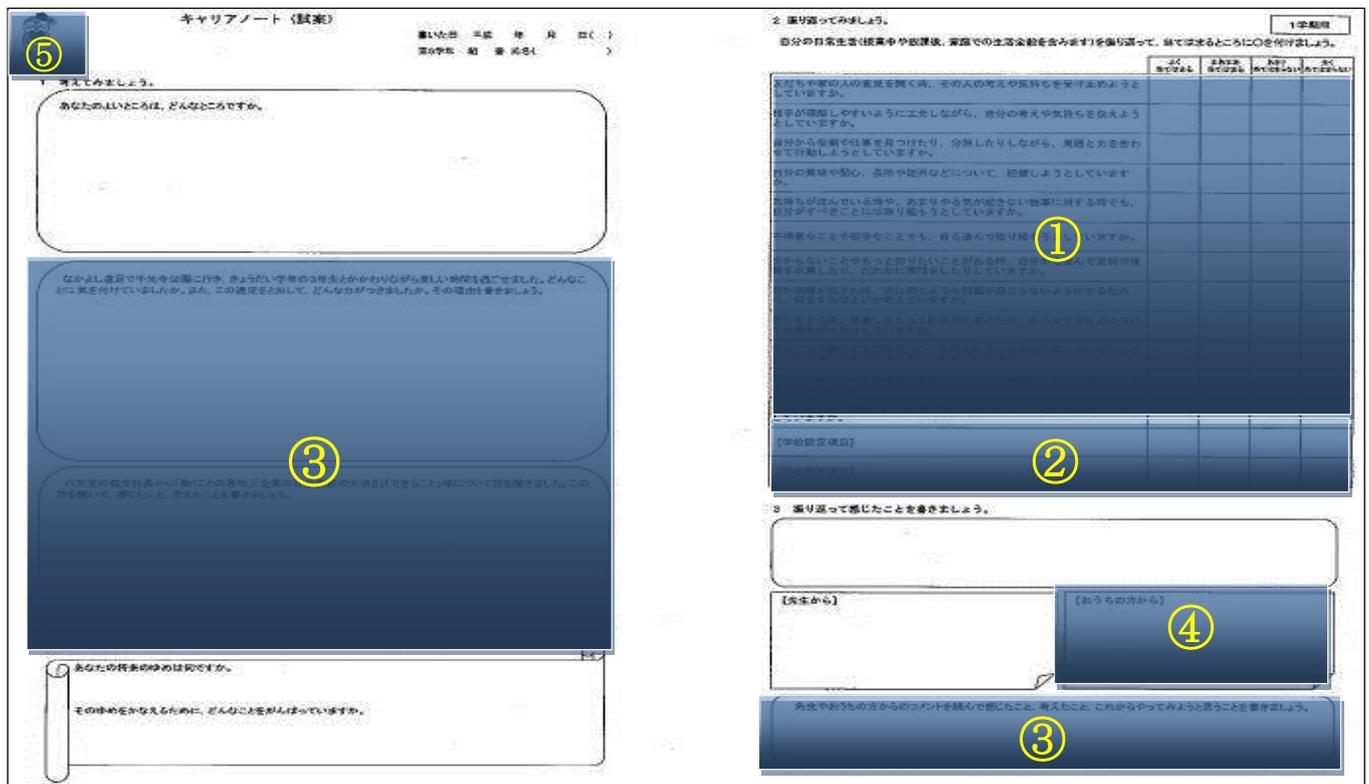


図5 「キャリアノート」の内容の改善ポイントを踏まえた試案

※ p. 131資料参照

援会議（平成20年）「広島県におけるキャリア教育の充実に向けて（提言）輝く大人をめざして 夢のスケッチブックづくり」や前述の教員用の「キャリアノート」を参考に、「つながり」を視点に共通理解を図ることで、児童生徒理解に基づいた取組になると考える。

今後は、学校の特徴を生かした効果的な活用につながるよう作成した改善試案を使用し、児童生徒の実態を踏まえて改善を図っていく。また、担任のコメント欄に、児童生徒のよいところや頑張っていたことの詳細がわかるように、児童生徒とのかかわりのなかでのエピソードを収集していくことを発信していく。さらに、低学年及び中学年が基礎的・汎用的能力の各要素に対応した振り返りが行えるような項目を作成し、系統性をもたせた取組となるよう試案を作成したい。

おわりに

懇切丁寧に御指導いただいた福山大学人間文化学部人間文化学科 小原友行教授、学校として児童生徒に付けたい資質・能力を明確にし、年間を通じ、児童生徒の成長を願い、一人一人のキャリア発達を促すキャリア教育を展開された三原市立糸崎小学校及び尾道市立瀬戸田中学校、そして、最新の国の情報や忌憚のない御意見をいただいた広島県教育委員会義務教育指導課 小池紘太郎指導主事に衷心より感謝を申し上げます。

【注】

- (1) 文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター編（2016）「変わる！キャリア教育一小・中・高等学校までの一貫した推進のために」の資料編「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第一次報告書（概要版）—キャリア教育の現状と課題に焦点をあてて—」に詳しい。
- (2) キャリア教育支援会議（平成20年）：「広島県におけるキャリア教育の充実に向けて（提言）輝く大人をめざして 夢のスケッチブックづくり」に詳しい。
- (3) 中央教育審議会（平成23年）：「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」 pp. 19-20に詳しい。
- (4) 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2014）「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」 pp. 30-31に詳しい。
- (5) 文部科学省 国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2014）：前掲書 pp. 88-90に詳しい。
- (6) 文部科学省（平成23年）：「中学校キャリア教育の手引き」 pp. 26-28に詳しい。
- (7) 文部科学省（平成18年）：「小学校・中学校・高等学校におけるキャリア教育推進の手引」 pp. 30-32に詳しい。

- (8) 文部科学省（平成23年）：「小学校キャリア教育の手引き〔改訂版〕」 p. 78に詳しい。
- (9) 文部科学省（平成23年）：「中学校キャリア教育の手引き」 p. 116に詳しい。
- (10) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05062401/001.htmlに詳しい。
- (11) 文部科学省（平成16年）：「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議（報告書）」 pp. 28-30に詳しい。
- (12) <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/06senior-2nd-career-09-020teigen.html>に詳しい。
- (13) http://www.human.tsukuba.ac.jp/xfujita/topics_20160802.htmlに詳しい。

【引用文献】

- 1) 広島県教育委員会（平成20年）「夢をはぐくみ、在り方生き方を考えさせる キャリア教育の推進—幼児児童生徒一人一人の『自己実現』をめざして—」 p. 1 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/29969.pdf>
- 2) 藤田晃之（2014）：「キャリア教育基礎論 正しい理解と実践のために」 p. 57
- 3) 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2014）：「キャリア発達にかかわる諸能力の育成に関する調査研究報告書」 p. 88
- 4) 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2014）：前掲書 p. 88
- 5) 文部科学省（平成23年）：「中学校キャリア教育の手引き」 p. 16
- 6) 文部科学省国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2014）：前掲書 p. 90
- 7) 文部科学省（平成23年）：前掲書 p. 26
- 8) 文部科学省（平成16年）：「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議（報告書）」 p. 28
- 9) 広島県教育委員会（平成20年）：「キャリア教育実践の手引き」 p. 7
- 10) 広島県教育委員会（平成20年）：前掲書 p. 35
- 11) 文部科学省（平成28年）：「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめのポイント」 p. 35

【参考文献】

- 仙崎武・藤田晃之・三村隆男・鹿嶋研之助・池場望・下村英雄編著（2008）：「教育再生のためのグランド・レビュー キャリア教育の系譜と展開」 社団法人 雇用問題研究会
- 稲葉茂勝著・長田徹監修（2017）：『みんなが元気になるのしい！アクティブ・ラーニング③「キャリア・ノート」つくる意味とつくり方～「キャリア・ノート」は、きみの将来の宝もの』フレーベル館



キャリアノート（試案）

書いた日 平成 年 月 日 ()
第 学年 組 番 氏名 ()

1 学期用

2 振り返ってみよう。

自分の日常生活(授業中や放課後、家庭での生活全般を含みます)を振り返って、当てはまるところに○を付けましょう。

| | よく当てはまる | まあまあ当てはまる | あまり当てはまらない | 全く当てはまらない |
|--|---------|-----------|------------|-----------|
| 友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていきますか。 | | | | |
| 相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。 | | | | |
| 自分から役割や仕事を分けたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。 | | | | |
| 自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握しようとしていますか。 | | | | |
| 気持ちが沈んでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。 | | | | |
| 不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。 | | | | |
| 分からないことやもつと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしていますか。 | | | | |
| 何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。 | | | | |
| 何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。 | | | | |
| 学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。 | | | | |
| 自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えていますか。 | | | | |
| 自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。 | | | | |
| 【学校設定項目】 | | | | |
| 【学校設定項目】 | | | | |

3 振り返って感じたことを書きましょう。

振り返って感じたことを書きましょう。

【先生から】

【おうちの方から】

先生やおうちの方からのコメントを読んで感じたこと、考えたこと、これからやってみようと思うことを書きましょう。

1 考えてみましょう。

あなたのよいところは、どんなところですか。

あなたのよいところは、どんなところですか。

なかよし遠足で千光寺公園に行き、きょうがい学年の3年生どなかわりながら楽しい時間を過ごせました。どんなことに気を付けていましたか。また、この遠足をおして、どんな力がつきましたか。その理由を書きましょう。

なかよし遠足で千光寺公園に行き、きょうがい学年の3年生どなかわりながら楽しい時間を過ごせました。どんなことに気を付けていましたか。また、この遠足をおして、どんな力がつきましたか。その理由を書きましょう。

八天堂の森 光社長から「働くことの意味」「企業の社会貢献の大切さ」「できること」等について話を聞きました。この話を聞いて、感じたこと、考えたこと、そしてこれからの生活に生かしたいことを書きましょう。

八天堂の森 光社長から「働くことの意味」「企業の社会貢献の大切さ」「できること」等について話を聞きました。この話を聞いて、感じたこと、考えたこと、そしてこれからの生活に生かしたいことを書きましょう。

あなたの将来のゆめは何ですか。

そのゆめをかかえるために、どんなことをがんばっていますか。

あなたの将来のゆめは何ですか。
そのゆめをかかえるために、どんなことをがんばっていますか。



キャリアノート（試案）

書いた日 平成 年 月 日 ()
第 学年 組 番 氏名 ()

2学期用

2 振り返ってみよう。

自分の日常生活(授業中や放課後、家庭での生活全般を含みます)を振り返って、当てはまるところに○を付けましょう。

| | よく当てはまる | まあまあ当てはまる | あまり当てはまらない | 全く当てはまらない |
|--|---------|-----------|------------|-----------|
| 友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていませんか。 | | | | |
| 相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。 | | | | |
| 自分から役割や仕事を分けたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。 | | | | |
| 自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握しようとしていますか。 | | | | |
| 気持ちが沈んでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。 | | | | |
| 不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。 | | | | |
| 分からないことやもつと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしていますか。 | | | | |
| 何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。 | | | | |
| 何かをする時、見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。 | | | | |
| 学ぶことや働くことの意味について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。 | | | | |
| 自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えていますか。 | | | | |
| 自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。 | | | | |
| 【学校設定項目】 | | | | |
| 【学校設定項目】 | | | | |

3 振り返って感じたことを書きましょう。

振り返って感じたことを書きましょう。

【先生から】

【おうちの方から】

そのゆめをかかなえるために、どんなことをがんばっていますか。

あなたの将来のゆめは何ですか。

先生やおうちの方からのコメントを読んで感じたこと、考えたこと、これからやってみようと思うことを書きましょう。



キャリアノート（試案）

書いた日 平成 年 月 日 ()
第 名 学年 組 番 氏名 ()

1 学期用

2 振り返ってみましょう。 自分の日常生活(授業中や放課後、家庭での生活全般を含みます)を振り返って、当てはまるところに○を付けましょう。

| | よく当てはまる | まあまあ当てはまる | あまり当てはまらない | 全く当てはまらない |
|--|---------|-----------|------------|-----------|
| 友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていますか。 | | | | |
| 相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。 | | | | |
| 自分から役割や仕事を託ったり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。 | | | | |
| 自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握しようとしていますか。 | | | | |
| 気持ちが沈んでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。 | | | | |
| 不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。 | | | | |
| 分からないことやもつと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしていますか。 | | | | |
| 何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。 | | | | |
| 何かをする時、見通しをもつて計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。 | | | | |
| 学ぶことや働くことの高齢について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。 | | | | |
| 自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えていますか。 | | | | |
| 自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。 | | | | |
| 【学校設定項目】 | | | | |
| 【学校設定項目】 | | | | |

3 振り返って感じたことを書きましょう。

振り返って感じたことを書きましょう。

【担任から】

担任からのコメントを読んで感じたこと、考えたこと、これからやってみようと思うことを書きましょう。

1 考えてみましょう。

自分の特色(性格・得意分野など)やがんばっていることを書きましょう。

自分の特色(性格・得意分野など)やがんばっていることを書きましょう。

職場体験学習(キャリアスタートワーク)で身に付いた力は何か。その理由と、身に付いた力をこれからの生活で、どのように生かしたいですか。

職場体験学習(キャリアスタートワーク)で身に付いた力は何か。その理由と、身に付いた力をこれからの生活で、どのように生かしたいですか。

今後の自分について、大切にしたいことや努力したいことを書きましょう。

今後の自分について、大切にしたいことや努力したいことを書きましょう。

あなたの将来の夢は何ですか。

あなたの将来の夢は何ですか。

その夢をかなえるために、どんなことをがんばっていますか。

その夢をかなえるために、どんなことをがんばっていますか。



キャリアノート（試案）

書いた日 平成 年 月 日()
第 学年 組 番 氏名()

2学期用

2 振り返ってみましょう。 自分の日常生活(授業中や放課後、家庭での生活全般を含みます)を振り返って、当てはまるところに○を付け ましょう。

| | よく 当てはまる | まあまあ 当てはまる | あまり 当てはまる ていない | 全く 当てはまら ない |
|--|-------------|---------------|----------------------|-------------------|
| 友だちや家の人の意見を聞く時、その人の考えや気持ちを受け止めようとしていますか。 | | | | |
| 相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか。 | | | | |
| 自分から役割や仕事を託けたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしていますか。 | | | | |
| 自分の興味や関心、長所や短所などについて、把握しようとしていますか。 | | | | |
| 気持ちが沈んでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。 | | | | |
| 不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。 | | | | |
| 分からないことやもつと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、だれかに質問をしたりしていますか。 | | | | |
| 何か問題が起きた時、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えていますか。 | | | | |
| 何かをする時、見通しをもつて計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしていますか。 | | | | |
| 学ぶことや働くことの高齢について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしていますか。 | | | | |
| 自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えていますか。 | | | | |
| 自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。 | | | | |
| 【学校設定項目】 | | | | |
| 【学校設定項目】 | | | | |

3 振り返って感じたことを書きましょう。

振り返って感じたことを書きましょう。

【担任から】

振り返って感じたことを書きましょう。

担任からのコメントを読んで感じたこと、考えたこと、これからやってみようと思うことを書きましょう。

1 考えてみましょう。

自分の特色(性格・得意分野など)やがんばっていることを書きましょう。

自分の特色(性格・得意分野など)やがんばっていることを書きましょう。

瀬戸田高等学校での体験授業をとおして感じたこと、考えたことを書きましょう。また、明日からの学校生活に生かそうと思うことを書きましょう。

瀬戸田高等学校での体験授業をとおして感じたこと、考えたことを書きましょう。また、明日からの学校生活に生かそうと思うことを書きましょう。

今後の自分について、大切にしたいことや努力したいことを書きましょう。

今後の自分について、大切にしたいことや努力したいことを書きましょう。

あなたの将来の夢は何ですか。

その夢をかなえるために、どんなことをがんばっていますか。

あなたの将来の夢は何ですか。
その夢をかなえるために、どんなことをがんばっていますか。

5年組 番号 ()

1 振り返ってみましょう。

| | | | | |
|---|-------|---------|------------|---------|
| 話し合い(学級会, 委員会, 児童会など)には積極的に参加します。 | 当てはまる | やや当てはまる | あまり当てはまらない | 当てはまらない |
| 何かを決めるとき 自分の立場だけでなく他の人の立場にも立って考えて 決めます。 | | | | |
| 身近な産業や職業の様子を知っています。 | | | | |
| 働くことの大切さを知っています。 | | | | |
| 学校の中で, 高学年としての役割を果たしています。 | | | | |
| 将来, やりたい仕事について考えています。 | | | | |
| 係, 委員会, 児童会などでは, 学級や学校をよくすることを考えながら活動します。 | | | | |
| 将来の夢のために, 努力していることがあります。 | | | | |

2 振り返って思ったことを書きましょう。

3 考えてみましょう。

あなたのよいところはどんなところですか。

社会見学などを通して職業について学習したことで, 心に残っていることを書きましょう。

児童会活動など学校全体にかかわる仕事をしたときのこと, 心に残っていることを書きましょう。

・担当した仕事 ()

・心に残っていること

あなたの将来のゆめは何ですか。

そのゆめをかなえるために, どんなことをがんばっていますか。

4 先生から

.....

当てはまるところに
を付けましょう。

| | 当てはまる | やや当てはまる | あまり当てはまらない | 当てはまらない |
|--|-------|---------|------------|---------|
| 5年組 氏名 () | | | | |
| 1 振り返ってみましょう。 | | | | |
| 話し合い(学級会、委員会、児童会など)には積極的に参加します。 | | | | |
| 何かを決めるとき 自分の立場だけでなく他の人の立場にも立って考えて決めます。 | | | | |
| 身近な産業や職業の様子を知っています。 | | | | |
| 働くことの大切さを知っています。 | | | | |
| 学校の中で、高学年としての役割を果たしています。 | | | | |
| 将来、やりたい仕事について考えています。 | | | | |
| 係、委員会、児童会などでは、学級や学校をよくすることを考えながら活動します。 | | | | |
| 将来の夢のために、努力していることがあります。 | | | | |

児童の実態に合わせ、必要に応じて具体的な場面を挙げながら振り返らせましょう。

社会科の学習内容を想起させましょう。

内容の軽重については問いません。児童本人に思い当たることがあるかどうかで考えさせましょう。

上記8項目についての振り返りの結果や下学年から持ち上がったキャリアノートを見て、思ったことを書かせましょう。

2 振り返って思ったことを書きましょう。

3 考えてみましょう。

あなたのよいところはどこなところですか。
自己肯定感を高めるための項目です。思いつかないようであればあなたのいいところは～だと思えば、などの言葉かけをしましょう。

社会見学などを通して職業について学習したことで、心に残っていることを書きましょう。

社会科、総合的な学習の時間、学校行事等と関連付けて、見学やインタビューなどから学んだことをまとめるための項目です。質問項目は学校の実態に合わせて変更してください。

児童会活動など学校全体にかかわる仕事をしたときのこと、心に残っていることを書きましょう。

・担当した仕事
・心に残っていること
児童会活動だけに限らず、学校で行っている飼育栽培活動や学校行事、地域の行事、子ども会活動などと関連付けることもできます。質問項目は学校の実態に合わせて変更してください。

あなたの将来のゆめは何ですか。

「～してみたい」「～になりたい」 などを自由に書かせましょう。

そのゆめをかなえるために、どんなことをがんばらばいいですか。
理由も併せて書かせましょう。

4 先生から

児童のよいところ、頑張っていたことなどを認める肯定的な内容やさらに取り組んだらよい内容など総合的な所見を記述しましょう。